

随 想

大学・大学院に入学しませんか

佐々木 教祐

大学では沢山の入学試験があります。高校を卒業した人が受ける「大学入学試験」、高専を卒業した人や他大学から3年生に編入したい人のための「3年次編入学試験」、大学を卒業し大学院に入りたい人の受ける「大学院博士課程(前期過程)入学試験」、このコースは修士コースと呼ばれ、普通は2年で修士の学位が与えられます。このあと更に「大学院博士課程(後期期過程)入学試験」があり、これは博士コースと呼ばれるもので、普通3年で論文を提出し博士の学位が与えられることとなります。

これ以降は私の在職している名古屋大学、情報文化学部、大学院人間情報研究科を例にして話を進めていきます。具体的な内容を知りたい方は、名古屋大学のホームページ（<http://www.nagoya-u.ac.jp/>）の入学の案内から情報が得られます。3年次編入学試験については、行きたい学部の教務学生掛で聞いてください。実際に受験される時は出願書類を試験の1ヶ月ほど前に出さなければなりませんのでよく確かめてください。

まず「大学入学試験」ですが約2200名の学生募集の内、2月25日頃に行われる前期日程で68%、3月12日頃に行われる後期日程で19%が募集されます。その他に在学している高等学校長の推薦した者を対象に行う推薦入試で12%、帰国子女および社会人対象の入試で20名ほどを募集しています。

試験の内容は、前期日程：大学入試センター試験と大学独自の試験の合計点で判定されます。後期日程：各学部でやり方が異なっており、大学入試センター試験と大学独自の試験で判定している学部と、大学入試センター試験と調査書・面接だけで判定している所などさまざまです。推薦入試：志願理由書・推薦書・調査書・面接だけで判定する学部とその他に大学入試センター試験の成績を考慮して判定する学部があります。

3年生に編入を希望する人のための「3年次編入学試験」は7月末に行われており、受験生は高専、医療短大、専門学校、社会人など様々で年ごとに増えています。試験は小論文、数学または英語の内から1科目と面接があります。

昨年度、名古屋大学の新生に卒業後の進路について聞いた学生相談室アンケートによりますと、48.8%が大学院進学を希望しており、学部によっては70%以上のところもあるようです。このことは学部の4年と大学院修士の2年を合わせて6年のコースと考えている学生が半分くらいになってきたことを示しています。これには不景気で就職難という背景もあるでしょうが、大学院教育・研究体制の整備が進んでいることに加えて高度な専門職業人の養成も大学院教育の目的となってきたためと思われます。また大学院生の年齢もさまざまになり、大学時代の専門と異なるコースに入る人もいて徐々に多様化が進んでいます。受験資格についても緩和され、「受験する研究科が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者」も受験できるようになっています。この判定のやり方は試験・書類審査・面接などによりますが、大学を出ていなくても大学院に入学できる道が開けたことになるわけです。大学院で研究をしてみようと思われるほどの勉強家ならばこの審査もそれほど問題にはならないでしょう。その大学院の修士コースの入学試験は8月から9月の間に行われており、試験は専門分野のほかに英語と面接があります。最近では優秀な学生対象に大学3年から大学院に入学できる飛び級制度もあり、それに対応して2月頃に2次募集を行うところが多くなっています。大学院に入って再度勉強をし直してみたいと思われている方は、一度大学の入試のホームページから各大学院の入試案内をチェックされることをお勧めします。

博士コースは学部と合わせて6年コースになりつつある修士コースに比べると専門化が進んでいるためまだそれほど多くはありませんが、研究職や高度な技術を必要とする職業に就きたい人などが受験します。以前と比べると募集の人数もかなり増えて入り易くなっています。研究について意欲のある方はホームページから希望する指導教官を見つけて、メールなどで連絡を取り相談してみることをお勧めします。試験は修士論文の発表と面接で2月に行われます。

私の在職する情報文化学部では7月末に行われる3年次編入学試験から始まり、大学院修士、大学入試センター試験、社会人特別、大学院修士の2次募集、博士コース、前期課程、後期課程と1年中を通じて入学試験が行われています。受験生の多様化に対応して選択の範囲が広がることは良いことである反面、出題・採点に関わる教官の仕事は増える一方です。これにより学修・研究に意欲のある優秀な学生さんが少しでも多く来てくれることを願っています。

(名古屋大学情報文化学部教授)